「炭鉄港」構成文化財MAP

～宝物を探しに～

「構成文化財」とは：
炭鉄港のストーリーを語る上で欠かせない有形や無形の様々な文化財群のこと
1～23:炭鉱　24～28:鉄鋼　29～33:港湾　34～45:鉄道

公開休止中の施設もあります
必ず事前に確認されてからご訪問ください

1 空知川露頭炭層
～赤平市～



1857 年に松浦武四郎が発見、その後榎本武揚や開拓使に雇われた地質学者ライマンらが調査をし、空知で初めての炭層が確認された。
（※展望広場から遠望で見学可）

赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設　電話：0125-74-6505
開館時間　9:30～17:00　月火休

2 北炭幌内炭鉱音羽坑
～三笠市～



1879 年、幌内炭鉱で最初に開削された延長約 700mの坑道。北海道近代炭鉱の端緒となった。
（散策道上から見学可能）

三笠ジオパーク推進協議会　電話：01267-2-3997
http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/

3 樺戸集治監本庁舎（月形樺戸博物館）
空知集治監 典獄官舎レンガ煙突
～月形町・三笠市～



樺戸集治監は 1881 年、空知集治監は 1882 年に設置され、囚人は開拓のため道路開削や炭鉱労働に従事した。
市町有形文化財

月形樺戸博物館 電話：0126-53-2399　開館時間 4～11 月 9:30～17:00
三笠ジオパーク推進協議会　電話：01267-2-3997

4 夕張の石炭大露頭「夕張 24 尺層」
～夕張市～



1888 年に、道庁技師・坂市太郎によって発見された。厚さ約 7.3m(24 尺）と大規模で貴重なものであるとともに、夕張の歴史の起点である。（※公開休止中）
道天然記念物

夕張市教育委員会　電話：0123-57-7711
http://www.city.yubari.lg.jp/kanko/miruasobutaiken/dairotou.html

5 小林酒造建造物群
～栗山町～



1900 年、夕張に近い栗山町に移転。周辺の炭鉱労働者に愛され出荷数を伸ばした。敷地内にはレンガや軟石による蔵が点在し、町の景観を形成している。
国登録有形文化財

蔵元北の錦記念館（小林酒造直売所）　電話：0123-76-9292
http://www.kitanonishiki.com/　開館時間 4~10月10:00~17:00、11~3月10:00~16:00

6 旧北炭夕張炭鉱天龍坑
～夕張市～



1900 年に開坑。入気・排気の坑口が対になって残っていること、赤レンガの化粧坑口が寒冷的に美しいことが特徴である。（※公開休止中）
国登録有形文化財

夕張市教育委員会　電話：0123-57-7711

7 炭鉱の記憶 マネジメントセンター石蔵
～岩見沢市～



1909 年に建築された石蔵で、鉄道で繁栄した時代の面影を今も残している。2009 年から「炭鉱の記憶」の情報拠点として運営。

NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団　電話：0126-24-9901
http://www.mc.soratan.com/index.html　開館時間 10：30～17：30　月火休

8 旧北炭鹿ノ谷倶楽部（夕張鹿鳴館）
～夕張市～



1913 年開設。北炭の賓客や会社幹部の宿泊・会合に用いられた福利施設で、1954 年に昭和天皇が宿泊した際に、寝室・炊事場を大改造した。
（外観のみ観覧可能）
国登録有形文化財

夕張市地域振興課　電話：0123-52-3128

9 幌内変電所
～三笠市～



1919 年頃に建設され、建物内には配電盤などが現存している。夕張から歌志内間の約 100km の自家発送電網の中間に位置し、長距離送電黎明期の数少ない施設として貴重である。
（外観のみ見学可能）

三笠ジオパーク推進協議会　電話：01267-2-3997
http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/

10 北炭幾春別炭鉱錦立坑櫓
～三笠市～



1917 年に起工。立坑深度約 215m、竪坑櫓高さ約 10m で、現存する立坑としては道内最古。櫓の鉄骨には製造した九州の八幡製鉄所の刻印が残る。

三笠ジオパーク推進協議会　電話：01267-2-3997
http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/

11 三菱美唄炭鉱竪坑櫓
～美唄市～



1923 年に建設された、道内で 2 番目に古い竪坑櫓で一対は日本唯一。排気・入気用の 2 本の竪坑が並び、現在は炭鉱メモリアル森林公園として公開。
（冬期間は見学不可）

美唄市都市整備部都市整備課　電話：0126-62-3131
https://www.city.bibai.hokkaido.jp/soshiki/2/1601.html

12 旧北炭滝ノ上水力発電所
～夕張市～



1925 年に運転開始。北炭が所有する炭鉱の動力源として建設され、発電された電気は 100km 離れた歌志内まで送られた。
（外観のみ観覧可能　4～11 月）

北海道企業局夕張川発電管理事務所　電話：0123-57-2542
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kg/htd/takinoue.html

13 北炭新幌内砿坑口
～三笠市～



3 度のガス爆発事故に遭いながら 1934 年に出炭開始。坑内メタンガス利用の先駆け的な存在であった。（外観のみ見学可能・敷地内は立入禁止）

三笠ジオパーク推進協議会　電話：01267-2-3997
http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/

14 旧北炭夕張炭鉱模擬坑道（夕張市石炭博物館）
～夕張市～



天龍坑の補助坑道を一部利用して 1939 年に見学用坑道として整備。地下で実物の炭層や採炭機械を見学できる国内でも珍しい施設。（※公開休止中）
国登録有形文化財

夕張市石炭博物館　電話：0123-52-5500
開館時間　4～9 月 10：00～17：00、10～11 月 10：00～16：00　火休

15 旧北炭清水沢水力発電所
～夕張市～



滝ノ上水力発電所と同様、炭鉱の動力源として建設され 1940 年に運転開始。
（外観のみ観覧可能）

北海道企業局夕張川発電管理事務所　電話：0123-57-2542
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kg/htd/shimizusawa.html

16 北炭赤間炭鉱ズリ山
～赤平市～



採掘した石炭を選別した際に出る廃石（ズリ）を積み上げた山。赤平市のランドマークになっており、ズリ山階段数（直線部分 777 段）は日本一。
（登山は無積雪期のみ）

赤平市建設課管理計画係　電話：0125-32-1821

17 採炭救国坑夫の像
～夕張市～



1944 年に制作されたコンクリート製の塑像（高さ 3.63m）。炭都・夕張のシンボルとして市民に親しまれ、戦時美術品としても価値がある。（※公開休止中）
市有形文化財

夕張市教育委員会　電話：0123-57-7711

18 人民裁判の絵
～美唄市～



人民裁判は、戦後労働運動の象徴的な事件として知られ、労働条件の向上を求める労組が、会館で幹部職員を 36 時間にわたって拘束した大衆団交の様子を伝える。

美唄市教育委員会生涯学習課　電話：0126-62-3132
https://www.city.bibai.hokkaido.jp/soshiki/2/1601.html

19 旧栄小学校（安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄）
～美唄市～



1949 年に校舎竣設。1959 年には 30 学級・1,250 名となりピークを迎えた。現在は彫刻家安田侃氏の作品を展示する美術館として活用。旧校舎・体育館は市有形文化財

認定 NPO 法人アルテピアッツァびばい　電話：0126-63-3137
https://www.artepiazza.jp/　開館時間 9：00～17：00
休館日：毎週火曜、祝日の翌日（日曜日は除く）、年末年始

20 旧頼城小学校（星槎大学）校舎及び体育館
～芦別市～



1954 年建設。校舎は 36 教室、一棟校舎の全長 106mと長大な外壁総れんが積で上空から眺めると山の形になっている。体育館は屋根を支える木骨トラス幾何学的形状が特徴的。（外観のみ観覧可能）
国登録有形文化財

芦別市総務部企画政策課まちづくり推進係　電話：0124-27-7061
http://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/kanko/tantetuko/

21 三笠市役所庁舎
～三笠市～



1956 年竣工。Y 字型の形状は、当時話題となった東京厚生病院と酷似しており、市制施行を目前にした産炭都市の勢いを感じさせる。

三笠ジオパーク推進協議会　電話：01267-2-3997
http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/

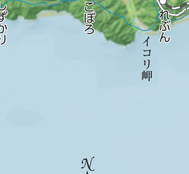
22 住友奔別炭鉱立坑櫓・周辺施設
～三笠市～



1960 年建設。ドイツの技術を導入し、合理化の旗手として注目されたが、わずか 12 年で閉山。
（外観のみ見学可能・敷地内は立入禁止）

三笠ジオパーク推進協議会　電話：01267-2-3997
http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/

23 住友赤平炭鉱立坑櫓・周辺施設
～赤平市～



1963 年建設。住友奔別立坑櫓の改良型。1 日 2 回、ガイド付きで建屋内部を見学できる貴重な施設で、石炭産業のスケールを体感できる。
【ガイド付き見学の実施時間】
①10：00　②13：30

赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設　電話：0125-74-6505
開館時間　9:30～17:00　月火休

24 旧火力発電所（日本製鋼所）
～室蘭市～



1909 年に建設された煉瓦造りの石炭火力発電施設。鉄鋼生産に必要な電力を自社発電するため、英国から輸入した発電機などが設置されていた。
（※非公開）

日本製鋼所 M&E ㈱室蘭製作所昼間総合案内・総務グループ
電話：0143-22-0143　http://www.jsw.co.jp/

25 恵比寿・大黒天像
～室蘭市～



1909 年に室蘭で初めて製造された鉄を用いて制作された。高炉の火入れを記念して関係者に贈呈されたもの。（日本製鉄（株）北日本製鉄所室蘭地区は団体予約のみ公開）

室蘭民族資料館ととんてん館 電話：0143-59-4922 http://www.city.muroran.lg.jp
日本製鉄（株）北日本製鉄所室蘭地区 http://www.nipponsteel.com/works/north_nippon/muroran/about/visit.html

27 日本製鋼所室蘭製作所製造 複葉機エンジン「室０号」
～室蘭市～



1918 年に日本製鋼所が製作した日本最初の航空機エンジン。陸軍からの正式受注を受け、わが国初の制式航空発動機として完成した。（要事前申込）
市有形文化財

日本製鋼所 M&E ㈱室蘭製作所昼間総合案内・総務グループ
電話：0143-22-0143　http://www.jsw.co.jp/

28 工場景観と企業城下町のまちなみ
～室蘭市～



港の周囲の工場群は、夜景観賞の人気スポットとなっている。また製鉄所付近には、最盛期の面影を残す商店街や施設などが残っている。

（一社）室蘭観光協会　電話：0143-23-0102

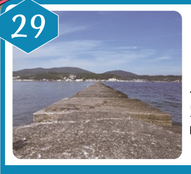
26 瑞泉閣
～室蘭市～



1911 年に、大正天皇が皇太子時代に、日本製鋼所室蘭製作所を視察の際、宿泊所として建設された。現在は来賓の迎賓館として使用している。（※非公開）

日本製鋼所 M&E ㈱室蘭製作所昼間総合案内・総務グループ
電話：0143-22-0143　http://www.jsw.co.jp/

29 小樽港北防波堤
～小樽市～



1908 年、小樽築港事務所所長の廣井勇によりわが国初の本格的港湾整備として建設。100 年以上を経過した現在も、「第一線防波堤」としてその機能を果たしている。

北海道開発局小樽開発建設部小樽港湾事務所　電話：0134-22-6131

30 北炭ローダー基礎
～小樽市～

1939 年建設。鉄道で運んだ石炭を船に積み込むための機械が据え付けられていた基礎。小樽港に唯一現存する石炭積み出しの痕跡。

小樽市産業港湾部日本遺産等担当　電話：0134-32-4111

31 色内銀行街（旧三井物産及旧三菱商事小樽支店）
～小樽市～



日本銀行、三井銀行をはじめとする明治から昭和にかけて建設された大手銀行が建ち並び、石炭を扱った商社の支店が当時の栄華を今に伝えている。

北海道中央バス株式会社　電話：0134-25-3333
開館時間　夏期 9：00～19：00、冬期 9：00～18：00（旧三菱商事小樽支店）

32 旧三菱合資会社 室蘭出張所
～室蘭市～



1915 年に建築。戦時中は日本石炭（石炭各社を統合した統制販売会社）の事務所として使用。現在は市民出資による保存団体が所有。

（一社）むろらん 100 年建造物保存活用会
http://www.muroran100.com/　開館時間　10：00～17：00　土日祝休

33 旧北炭室蘭海員倶楽部
～室蘭市～



1926 年に建築された北炭の海員倶楽部。山荘風の意匠が特徴。北炭の事務取締役であった井上角五郎氏の別荘があった場所に建設された。（※非公開）

室蘭市経済部観光課　電話：0143-25-3320

34 手宮線跡及び附属施設
～小樽市～



手宮線は、1880 年に北海道最初の鉄道として開通。市内中心部には、鉄道施設を残したオープンスペースが整備されている。

小樽市建設部公園緑地課　電話：0134-32-4111
小樽市産業港湾部日本遺産等担当　電話：0134-32-4111

35 旧手宮鉄道施設
～小樽市～

官営幌内鉄道時代から、鉄道輸送の中心地として活躍した手宮に残された鉄道設備。機関車庫二号は 1885 年竣工の現存最古の機関車庫。現在も蒸気機関車が運航している。国重要文化財

小樽市総合博物館　電話：0134-33-2523　開館時間 9：30～17：00　火休

36 小樽中央市場
～小樽市～



市場で仕入れた鮮魚やかまぼこをブリキ缶に入れ風呂敷で背負った行商人、通称ガンガン部隊が鉄道を使い空知の産炭地へ向かっていた。

小樽中央市場協同組合　電話：0134-22-5384
開館時間　9：00～18：00　日祝休

37 旧北海道炭礦鉄道 岩見沢工場（岩見沢レールセンター）
～岩見沢市～



1899 年、手宮工場の分工場として設置。車両の組み立てや機械の製作修理にあたり、現在も JR 北海道が使用している。
（外観のみ観覧可能）

北海道旅客鉄道事業本部　電話：011-700-5800

38 室蘭市旧室蘭駅舎
～室蘭市～



1912 年に建設。明治の洋風建築の面影を残す屋根や白壁づくりの外観。外回りは入母屋風で「がんぎ」と呼ばれるアーケード様式になっている。
国登録有形文化財

（一社）室蘭観光協会　電話：0143-23-0102
http://muro-kanko.com/　開館時間 4~10月8:00~19:00、11~3月8:00~17:00

39 朝日駅舎
～岩見沢市～



1919 年に開駅。万字炭鉱、美流渡炭鉱、朝日炭鉱から石炭を運搬するために開設された万字線の当時の様子を今に伝える。（外観のみ観覧可能）

岩見沢市建設部公園緑地環境課公園緑地事業係　電話：0126-35-4674

40 岩見沢操車場跡
～岩見沢市～



1922 年に建設が始まった貨車操車場で、1926 年に完成。函館本線と室蘭本線、幌内線、万字線の中継地であり、小樽・室蘭などへの石炭輸送、石狩・十勝・北見などの地域との貨物輸送の要衝として発展した当時の岩見沢の面影が残る。

岩見沢市企画財政部企画室企画調整係　電話：0126-35-4834

41 唐松駅舎
～三笠市～



1929 年に住友唐松炭鉱の石炭搬出貨物駅として開駅。待合室と駅事務室の腰折屋根 2 棟が直交した独特な形態が特徴的である。

三笠ジオパーク推進協議会　電話：01267-2-3997
http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/

42 クラウス15号蒸気機関車
～沼田町～

1889 年ドイツ・クラウス社で製造された蒸気機関車。九州鉄道に輸入され、1931 年に留萌鉄道に譲渡。1967 年まで昭和炭鉱で稼働した。
町有形文化財

沼田町教育委員会　電話：0164-35-2132
公開時期　5 月上旬～10 月末

43 蒸気機関車 D51 320 号機
～安平町～



1939 年に製造され小樽築港・追分機関区等に所属、1975 年まで石炭輸送等にあたった。現在も元機関士達による手入れが続けられている。
（屋外展示日あり）町有形文化財

安平町教育委員会　電話：0145-29-7036
開館時間　4 月上旬～10 月下旬　9：00～18：00

44 旧三井芦別鉄道 炭山川橋梁
～芦別市～



1945 年に竣工した、三井鉱山専用鉄道の構築。鉄橋上にはディーゼル機関車と石炭専用貨車が展示され、当時の運搬の様子を伝えている。
（外観のみ観覧可能）国登録有形文化財

芦別市総務部企画政策課まちづくり推進係　電話：0124-27-7061
http://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/kanko/tantetuko/

45 美唄鉄道駅舎・4110 形式 十輪連結タンク機関車２号
～美唄市～



1948 年に開業した美唄鉄道の駅舎。機関車は 1919 年に製造。駅内には当時の広告や時刻表など石炭で栄えた町の記憶が残っている。（冬期間は見学不可）
機関車は市有形文化財

美唄市教育委員会生涯学習課　電話：0126-62-3132
https://www.city.bibai.hokkaido.jp/soshiki/2/1601.html

・この地図は空間情報データベース GISMAP を使用して作成した。　・海底地形は、(一般)日本水路協会の海底地形デジタルデータを利用した。　・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 2 万 5 千分の 1地形図を使用した。（承認番号　令元情使、第 415-GISMAP42767 号）